

令和5年度予算主要事業の概要
(事業別説明資料)

神岡振興事務所



目 次

カミオカラボ運営体制の検証と強化	3
ロストラインパーク構想の推進	4
鉱山資料館のリニューアルに向けた財源確保対策	5
高原川ミズベリング・プロジェクトの推進	6

注：タイトル末尾に*印がある事業は所属ごとの概要資料のみに掲載しています（*印がない事業は主要事業編から再掲となります）

拡充 カミオカラボ運営体制の検証と強化

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
8,264	ふるさと納税	8,264	委託料	7,737
			印刷製本費	250
(前年度予算 1,195)			その他	277

2 事業背景・目的

ひだ宇宙科学館カミオカラボは、平成31年3月の開館から約3年半で来館者数が30万人を突破するなど、市内で行われる世界最先端の宇宙物理学研究を分かりやすく学べる施設として、市内外から大きな注目を集めています。

開館から5年目を迎えるにあたり、これまでの取組みについて、様々な社会情勢等の変化も踏まえた検証を行うとともに、持続可能な運営体制に向けたアウトソーシングを推進することで、施設の魅力度や情報発信力の更なる向上を図ります。

3 事業概要

①【新規】専門的な業務のアウトソーシングによる運営体制の強化 (7,260千円)

専門的な知識が必要な業務を研究機関や民間団体等へ委託し、楽しく学べる魅力ある施設として持続可能な運営体制を構築します。

- ・ 民間団体との協働によるサイエンスコミュニケーター*の全国公募と育成
- ・ 大学や研究機関に所属する学生・研究者等による館内案内等の実施
- ・ 専門事業者等による動画制作や企画展・子ども向けイベントの開催

*科学者等と一般の方々をつなぎ、双方向のコミュニケーションを生み出す役割を担うスタッフ

②【拡充】運営上の課題と今後の対策の整理・検討 (519千円)

過去4年間の運営状況を振り返り、開館当初のコンセプトである「分かりやすく楽しく伝える」を実現できているか、最先端の宇宙物理学研究の世界と一般の方々をつなぐ接点として機能してきたか等について、関係機関を交えた点検・評価を実施し、課題の洗い出しとその解決に向けた具体策の検討を進めます。

③【継続】魅力ある館内イベントの実施や全国の関連施設等との連携 (485千円)

研究機関の協力による研究者トークを継続開催するほか、地元の中学校や全国の関連施設等との連携を深め、新たな館内イベントの可能性を模索します。また、地域の子ども達が館内案内等に携わるラボサポーター制度を本格的に再開します。

担当課：神岡振興事務所市民振興課 (☎0578-82-2253) 予算書：P.56

拡充 ロストラインパーク構想の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
22,424	鉄道資産基金	19,574	委託料	19,574
	ふるさと納税	1,500	工事請負費	1,500
(前年度予算 2,530)	一般財源	1,350	その他	1,350

2 事業背景・目的

NPO法人神岡・町づくりネットワークが平成19年から運営するレールマウンテンバイク「ガッタンゴー」は、旧神岡鉄道の廃線鉄路を活用した新感覚の乗り物として全国の注目を集め、令和2年度には本物の気動車である「おくひだ号」の運転体験も導入され、令和4年度には過去最多の6万人超が訪れる地域の観光の柱へと大きく成長を遂げています。

こうした廃線利活用の取組をつなぐことを目的として、平成29年度に全国15団体で構成する「日本ロストライン協議会」が設立されていますが、各団体の成り立ちや事業内容の違いなどから、組織的な活動にまで至らない状況が続いています。

このため、活動の先駆者であるNPO法人と協議会事務局を務める市とが連携し、会員相互の交流機会の拡大を図りながら、お互いの強みや弱みを知り支え合える関係性の再構築に取り組むとともに、ガッタンゴー乗車体験会等のPR活動を展開することで、これからの全国の廃線利活用をけん引していくリーディングシティを目指します。

3 事業概要

①【拡充】日本ロストライン協議会の交流活動の推進 (511千円)

広島県三次市を候補地として会員参加型の現地体験ツアーを試行的に開催するほか、NPO法人と合同で全国の会員団体を訪問し、現地視察や意見交換を実施します。

②【拡充】廃線利活用PR活動の推進 (836千円)

東京都内で開催されるイベントやロストライン協議会加盟地域に出展し、NPO法人の協力によりガッタンゴーの乗車体験会を開催することで、全国に向けて廃線利活用の可能性をPRします。

③【継続】構造物の点検・補修等の実施 (21,077千円)

今後も安全な環境下でガッタンゴーを楽しんでいただけるよう、5年周期で行う溪谷コースのトンネル点検や神岡橋梁他のPCB含有物除去に向けた予備設計、奥飛騨温泉口駅駐車場の舗装修繕などを実施します。

担当課：神岡振興事務所市民振興課 (☎0578-82-2253) 予算書：P.56

継続 鉾山資料館のリニューアルに向けた財源確保対策

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
375	一般財源	375
		印刷製本費 200
		普通旅費 160
(前年度予算 8,411)		交際費 15

2 事業背景・目的

鉾山資料館は、近代以降の神岡町の主要産業として人々の暮らしを支えてきた神岡鉾山について学べる施設ですが、操業盛期の鉾業技術の紹介など専門的で内容が古い展示物が多く、その歴史や価値を現代に伝える機能としては十分なものではなくなっています。

また、時代の経過とともに神岡鉾山の繁栄期を知る市民も少なくなり、地域の子ども達の多くは鉾山町の認識がない世代となりつつあります。

こうした中、令和元年度に神岡町の若手有志組織「神岡の街づくりを考える会」によるまちづくり提言書において鉾山資料館の活用が取り上げられたことを契機として、市においても再整備に向けた検討を開始し、令和4年度には「鉾山のまち神岡の歴史と文化を後世に繋ぐ」をメインコンセプトとしたリニューアル基本計画を策定しました。

一方で、リニューアルには多額の費用が見込まれますが、こうした施設の整備に関しては多くの方々の理解や共感を得ていくプロセスが重要であることから、カミオカラボと同様に企業版ふるさと納税等の寄附金を広く募り、資金調達の見通しがついた段階で整備に着手する方針とし、令和5年度より全国の企業や個人をターゲットとした本格的な寄付募集活動を展開します。

3 事業概要

基本計画をもとにリニューアルの内容やデザインイメージ、取組みの意義等を分かりやすく整理したコンセプト資料を作成し、市に所縁のある企業等への訪問説明を行うとともに、市ホームページ等を通じて広く世の中に発信することで、企業版及び個人からのふるさと納税等を促進し、早期の整備財源の獲得を目指します。

【拡充】 高原川ミズベリング・プロジェクトの推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
900	ふるさと納税	900 負担金
(前年度予算 400)		

2 事業背景・目的

ミズベリングとは、まだ十分には活用されていない日本の水辺の新しい可能性を模索し創造していくための官民協働による活動です。

市内では、平成30年度から神岡町市街地の高原川河川敷^{*}を舞台に活動がスタートし、例年8月に開催するミズベリングの日イベントでは、高原川に生息する生き物のミニ水族館や魚のつかみ取り体験に加え、ステージイベントやバザー等も行われ、新たな神岡の夏の風物詩として大きな賑わいを見せていますが、ミズベリングの特徴である公共の河川区域における恒常的な営利活動の実施には結びついていないのが現状です。

このことから、象徴的な活動としてミズベリングの日イベントの開催を継続しつつ、地域内外の民間事業者や市民との連携を深め、高原川の水辺の更なる賑わいの創出と川に親しむ場面の拡大を図ります。

※藤波橋から神岡消防署付近まで約1kmの区間

3 事業概要

①【新規】民間事業者等によるミズベリング会場の利活用促進 (250千円)

ミズベリング会場に隣接する船津座の指定管理者を始めとする民間事業者や関係団体、地元中学生等から広くアイデア等を募り、その実現に要する費用を市が負担することで、民間主体によるミズベリング会場の定期的なイベント等利活用を促進します。

②【新規】子ども・大人向けの魚釣り教室の開催 (350千円)

市民が安全に川と親しめる機会を提供するため、鮎釣り名人や漁協組合員を講師に迎え、子どもから大人までを対象とした魚釣り教室をミズベリング会場で定期開催します。

- ・子ども向け教室 7～9月開催 (安全講習を含む全5回)、定員20名程度
- ・大人向け教室 7月開催 (1回)、定員10名程度

③【継続】ミズベリングの日イベントの開催 (300千円)

船津座周辺の河川敷を会場として、市民らが気軽に川と親しみ水辺を楽しめるイベント (ミニ水族館の開設や魚のつかみ取り、バザーの開催等) を8月上旬に開催します。

担当課：神岡振興事務所市民振興課 (☎0578-82-2253) 予算書：P.56